

二小だより

土浦市立土浦第二小学校
2011. 6 .13

<http://www.tsuchiura.ed.jp/~nisho/>



陸上記録会にて

校長室の窓から

いつの間にか梅雨入りし、沖縄では梅雨明けが発表されました。夏の節電対策が言われている中、学校でできる節電を考えています。教室の照度を落とすわけにはいきませんが、使わない教室やトイレ、廊下の電気をこまめに消すことを子どもたちにも呼びかけています。また、校長室・保健室の前に「緑のカーテン」をつくる作業に取りかかっています。見た目にも涼しく、節電効果が見られればよいなと思っています。



6年女子ハードル

7日、中央地区陸上記録会が行われ、梅雨のジメッと感を吹き飛ばすかのような二小生の活躍ぶりでした。入賞した子どもたちはもちろん、子どもたちの一生懸命取り組む姿は見る人たちに清涼感を与えてくれました。また、子どもたち自身も、「自己ベストを出すことができました」「自分もがんばったし、応援も一生懸命できました」など、自分なりに満足感をもって取り組むことができたようでした。そして何より、返事がよかったこと。他校の先生から、「二小の子どもたちの返事はいいね、対角線上にいてもはっきり聞こえる返事だね」とお褒めの言葉をいただきました。とてもうれしいことです。「校内でできていることが、校外に出てもできる」5・6年生はすばらしいと思います。

8日の「二小大好き集会」では今年が目標が発表され、各委員会、各学年がどのように取り組むかを宣言しました。1・2年生は「自分たちがこのように取り組む」、3・4年生は「自分たちの取り組みを学級から学校全体に広げる」、5・6年生は「校内でしっかり目標を守り、校外に出たときもできるようにがんばる」。なんてすばらしいんだろうと思いました。きちんと発達段階をふまえ、自分たちがやるべきことを発表する姿はとても立派でした。手前みそではありませんが、このように子どもたちを指導してくれた先生方はすばらしいと思いました。また、企画委員から目標について次のような話がありました、「昨年は『挨拶のキャッチボール』でしたが、今年は『挨拶のバトン』としました。それは1対1のキャッチボールではなく、次から次へとつなげ挨拶の輪を広げたいからです」と。説得力のある意見です。子どもたちに根拠を示して述べるといった表現力が身に付いているのを実感しました。



6学年の発表

「明るく笑顔であいさつのバトンをつないでいける学校」
「時間や行動にけじめをつけみんなが気持ちよく生活できる学校」
この目標が守れたかどうかを誰が評価するかと言えば、子どもたちを取り巻く人です。家族であり、先生方であり地域の方々です。ぜひ、元気なあいさつが交わされたときにはその場でほめてやってください。わたしたちは、「二小大好き集会」が形だけのものではなく、その内側の心を育ててきたいと考えています。

今、社会は曇り空が続いています。その中で子どもたちの活動は、私たちにさわやかな風を送り込んでくれます。子どもたちが笑顔で学校生活が送れるように支援していきます。

学校における放射線量について

現在、学校では校庭・砂場・プールサイドを、1cm・50cm・1mの高さで月曜と木曜日に測定しています。測定結果は、学校のホームページ上と来賓玄関に表示してあります。

プールについては、清掃は子どもたちではなく職員で行いました。プールの授業は、県から見解が出ておりませんので未定です。
新たな展開があったときにはお知らせしますのでよろしくお願いします。

新学習指導要領スタート (No. 2)

- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性【徳】
- たくましく生きるための健康や体力【体】

今月は、【徳】【体】の部分についてどのように取り組んでいるかを紹介します。

教育内容改善のポイント

○道徳教育を充実します

小学校における道徳教育は、道徳の時間(年間35時間、週1時間)を要として、学校の教育活動全体を通じて行われています

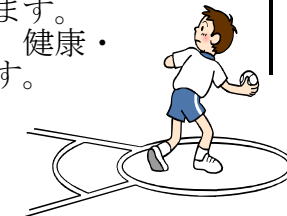
- ・自立心や自律性、自他の生命を尊重する心を育てます。(全学年)
- ・あいさつなどの基本的な生活習慣、人間としてしてはならないことをしないことを学びます。(低学年)
- ・集団や社会のきまりを守ることを学びます。(中学年)
- ・法やきまりの意義の理解、相手の立場を理解し、支え合う態度、集団における役割と責任を学びます。(高学年)



○健やかな体を育てます

生涯にわたって運動に親しみ、健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現できるように、一人一人に応じた体力の向上を目指します。また、学習したことを実生活、実社会において生かすことを重視します。

- ・多様な動きを身に付けることができるよう、体づくり運動を低学年から行います。
- ・心身の健康の保持増進のため、健康・安全に関する学習を充実します。



二小の取り組み

- ・道徳の時間を大切にし、各学級とも一度は保護者へ公開授業を行う。
- ・「心の広場」のコーナーを作り、互いの考えを知り、お互いを尊重する態度を養うきっかけとする。
- ・「二小大好き集会」「運動会」「音楽会」など行事を通して、成功体験を味わわせる。
- ・企画委員会を中心に、子どもたちの委員会活動を推進させ、自立心や自律性を養う。
例) あいさつ運動、学校内の美化運動
保健・給食・放送活動 など
- ・「黙働」を奨励し、清掃に真剣に取り組ませる。
- ・正しい言葉遣い、心地よい言葉遣いを心がけ、互いの人格を尊重するように支援する
- ・「あたりまえのことがあたりまえにできる」ことを基本とする。



- ・外遊びを奨励する。
- ・体力の課題(投力)解決に向け、学年ごとに「投げる」ことを中心にした遊びを実施する。
- ・運動量の多い体育の授業作りを行う。
- ・実生活に役立つ薬物乱用防止教室や歯磨きの指導などを行う。
- ・自分の健康を保持したり、危険を回避するような自己管理能力を養う。

今回の改訂では家庭ではぐくむ「生きる力」についても明記されています。

家庭教育は全ての教育の出発点です。子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るなど「生きる力」の基礎的な資質や能力は、家庭において培っていただくことが大切です。たとえば、以下のような、家庭での習慣を通じてはぐくむことが期待されます。

- ・いつも家族で「おはよう」「ただいま」「おやすみ」などのあいさつをする
 - ・毎日朝食を食べる
 - ・親子で話し合っ、テレビやゲームの時間などルールを決める
 - ・学校での出来事について子どもと話す
 - ・お手伝いの習慣をつける
 - ・早寝早起きを心がける
- 皆様のご家庭では、いかがですか？

子どもたちに「生きる力」を身につけさせるためには、家庭の協力が必要です。子どもたちの学校生活に目を向けていただき、あたたかい励ましの言葉をかけていただければと思います。子どもたちは、褒め認めてもらうと大きな力を発揮するのであります。